

るに随ひ、片麻岩、緑泥片岩、石灰岩と爲り、次で赤土或は化土にて被はれ、上に草木の生ずるを見る、其の最も下りて、高山の脚麓と爲る部分は、波狀形に起伏し大小無數の谷地を成形して、其間水草豊富、好個の牧場たり。

伊犁河孟の山中には、松樹、樺樹及野生果樹等茂生せるも其他の部分に於ては山陰の低谷に多少の松樹林散在するの外、山上には更に草木を見ず。山陽の溪谷中には稀に樹林を見るのみ、思ふに古來土人濫伐の結果たらんか又鑛物類は金、銀、銅、鐵、鉛、石炭、石膏、石鹽等を藏し所謂天然の寶庫なるが、僅に土人の採取に委して、未だ開發の氣運に向はず。

二 葱嶺山脈

葱嶺山脈とは即阿賴山より起りて南に奔り興都克士山に連繫する諸高嶺の總稱にして、是等一體の山脈は、延長約八、九十里、幅六、七里を有し、山邊の地勢一般に高騰し、海を抜くこと約一萬二千乃至一萬四千尺に達す、土人は之を巴密爾と稱し、歐人は此部を稱して地球の屋脊と曰ふ。葱嶺及巴密爾の最も早く世界に知られたるは往昔唐僧玄奘及伊太利人マルコポール等の通過して、各、其の聞見を傳へたる